

研究室だより

人事

寺師香織さん、四月一日付けで助手として着任。

大学院研究会開催

平成二十一年度前期大学院文学研究科国文学専攻研究会

平成二十一年七月十一日(土)

午後二時～四時半 本館三六二教室

中国における日本現代文学

大学院研究生 徐 蕊

慣用句出現形の制約に関する研究

博士前期課程二年 今和泉意図弥

丁寧さからみた「～です」「～ます」の使い分けにつ

いて―「欠席です」「欠席します」などを例にして―

博士前期課程二年 増澤 菜摘

接頭辞の有無による語の意味・用法の違いについて

博士前期課程二年 川上摩里子

研究生一名と、修士論文の執筆を控えた博士前期課程二

年の三名による発表が行われた。研究生の発表は現代中国

で日本文学がどう受け止められているのかが生の声で報告されるものであった。博士前期課程三名の発表は、いずれも日本語学・日本語教育学に関するもので、実際の日本語教育の現場における問題点が発表の焦点となるなど、興味深いものであった。

卒論ゼミナール

池田三枝子ゼミ

八月二十四日(月)～八月二十六日(水)

京都・奈良(合宿)

影山輝國ゼミ

八月十七日(月)～八月十九日(水)

箱根実習所(合宿)

栗原敦ゼミ

九月十五日(火)・九月十六日(水) 学内(発表会)

佐藤悟ゼミ

九月十六日(水)～九月十八日(金)

箱根実習所(合宿)

棚田輝嘉ゼミ

八月十四日(金)～八月十六日(金)

箱根実習所(合宿)

福嶋健伸ゼミ

九月十六日(水)・九月十七日(木) 学内(発表会)

牧野和夫ゼミ

九月一日(火)～九月三日(木) 京都(合宿)

山内博之ゼミ

九月十四日(月)～九月十六日(水)

箱根実習所(合宿)

横井孝ゼミ

九月六日(日)～九月九日(水) 京都(合宿)

夏期休業中に卒論ゼミ合宿・研究発表会が以上の日程で行われた。

〈編集後記〉

大学教育を担当して以来、初めて専門以外の教科を教えることになった。「初年次教育」として、新入生にノートの取り方やレポート・論文の書き方などを教えるのである。難渋したが、自身のこれまでのやり方を反省するよい機会になった。

昔はノートの取り方は自分で工夫したし、レポート・論文の書き方は先生や先輩たちのやり方を横目で見て覚えたものだ。「藝は人から盗み、自分で工夫するものだ」とさる高名な作家が言っていたが、何事でも人から手取り足と

り教えてもらって、簡単に手に入れたものは身に付き難い。院生たちもますます自ら創意工夫して、すぐれた内容の論文を書く技術を習得してもらいたい。

(影山輝國)

平成二十一年度前期号にあたる、第七十六号をお送りいたします。今号も、古典文学から現代文学までの論文や翻刻、日本語教育についての研究ノートなど、幅広い分野からの研究成果が集まりました。

昨今、大学教育の厳密化が進み、やや息苦しさを感じることもあります。ときとしてそれは、研究への圧迫ともなりかねないのですが、本学科は、そういったものを感じさせない、旺盛な研究意欲に満ちています。

後期は二回の特別講演会、また例年どおりの後期大学院研究発表会などが予定されています。今年度の後半も、倦むことなく教育と研究に邁進していきたいものです。

(植田 麦)